

## 第3回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

○日 時：令和4年11月28日（月） 10：30～12：00

○場 所：向日町競輪場 選手管理センター 3階305会議室

○出席者：川勝座長、岡崎委員、奥野委員、徳廣委員、山本委員 ※小長谷委員は欠席

### <議事>

#### (1) 向日町競輪事業の今後のあり方について

「資料1」～「資料4」に基づき、京都府から説明

##### (山本委員)

- ・ 京都府からは、現状及び課題認識について、詳しく説明があった。大きな流れとして、車券売上自体は堅調に推移している状況の中、向日町競輪場自体が昭和40年代に整備された施設を中心としており、売上が悪い時代があったのでなかなか施設の更新に着手できていなかった。
- ・ その点について、施設の更新を図るということ、時代に合った競輪場の施設整備、敷地も含めた有効活用を図っていかうではないかというような流れで認識している。
- ・ さらに、それらを具体化していく上で、競輪事業自体を安定的に経営していくという視点といわゆる社会貢献・地域貢献という視点で、何をしていくかということをはっきりとさせて、その中で中長期的に考えていくということである。
- ・ このような様々な活用のイメージを可能な限り取り上げていきながら、向日町競輪場の地域性という部分をどこまで取り入れられるのか。また、自転車競技の普及とどのように結びつけていくのかということで、非常によくまとめられているのではないか。

##### (岡崎委員)

- ・ 資料4の2頁の「外向け車券投票所」について、物集女街道からの距離や、一般の方と遮断されたような雰囲気や設置されるのかなど、設置のイメージを伺いたい。

##### (京都府)

- ・ 可能な限り物集女街道からは施設の内側に入って、バンク若しくは中央スタンドに隣接するような形での設置を考えており、物集女街道に張り出した形での設置は考えていない。

##### (川勝座長)

- ・ 仮に改修した場合の事業費については30億円以上と説明があった。包括外部監査の報告書では約45億円との想定であった。包括外部監査の想定事業費は、現在と同規模を維持した場合のものであって、資料で示されているような施設や機能の集約化までを想定した規模のものではないという理解でよいのか。

##### (京都府)

- ・ 包括外部監査では、解体費、バンクの全面改修及びメイン施設の建替で約30億円から36億円、それ以外で約10億円の合計約45億円とされている。施設の規模としては、資料で示しているような施設・機能の集約化までを想定したものではない。

(川勝座長)

- ・ そうであれば、資料にあるような規模になると、説明のあった30億円程度というのは、概ね妥当なところということか。

(京都府)

- ・ あくまで想定であり、例えば、スタンドをどれぐらいの収容人数にするのかにもよる。収容人数は、施設全体の人数で、スタンドと立見を合わせて5千人規模を想定しているもので、その内訳をどうするのか、また中央スタンドにどのような機能を持たせるのかなどによっても変わるものであり、他の競輪場の事例を見ても様々である。収支の見通しや資金確保の状況も踏まえ、事業費についてしっかり精査していきたい。

(川勝座長)

- ・ 現時点では、正確に事業費をはじき出すことはかなり困難であるとは思うが、大体の規模感は掴んでおく必要があるということで確認させていただいた。

(2) 意見交換

<論点1>

(川勝座長)

- ・ 2つの論点に基づいて、皆さんから御意見をいただきたい。本日の目標について確認させていただくと、有識者会議はこれから向日町競輪事業の今後の方向性についてとりまとめていくステージに入っていくことから、これまでの議論を、特に、今後の方向性を決めるに当たっての重要な論点と思われるのが資料2で示されている2点ということで、整理いただいた。
- ・ まず、一つ大きな方向性としては、存廃問題ということで有識者会議が立ち上がっているの、その点について今後どのようにしていくのかという大きな方向性について、皆さんからの御意見をいただきたい。
- ・ これまでの有識者会議での議論は、既に存続の可能性が高いというように私としては受け止めている。その点を確実に、有識者会議の中で方向性として示させていただくのであるが、存続するにしても、どのあたりがポイントになるのか。どのような要件を満たせば存続ということになるのかについて、併せて議論いただきたい。

(徳廣委員)

- ・ 昨日まで自転車競技の近畿大会を向日町競輪場で開催していたが、近畿大会を含めて、向日町競輪場で大会を開催する機会が非常に増えており、また滋賀県には競輪場がないということもあり、アクセスの面で、関西全体・近畿全体を見ても、向日町競輪場は非常にアクセスがよく、近畿の選手の話を知っていると、来やすいという話をよく聞く。
- ・ その点は、競技面だけではなく、いろいろな意味で、アクセスがよいというのは非常に有利な面で、メリットがあるのではないかと。
- ・ 令和7年度に滋賀で開催される国民スポーツ大会の自転車競技の会場が向日町競輪場に決定している。また、令和8年度の全国高校総体が近畿で開催されるが、自転車競技が向日町競輪場で開催される可能性が非常に高いのではないかと考えている。そういう意味で、自転車競技としても、向日町競輪場の存在の意味は非常に大きいと思っており、いろいろな意味で、向日町競輪場は魅力ある場所になるとともに、注目もされているの

ではないか。

- ・ 改修するのであれば、令和9年度から10年度にかけてという説明があったので少しホッとしている。本当は、国民スポーツ大会や全国高校総体が新しくなった競輪場で開催できれば、一番いい形ではないかと思うが、これは少し時期的には難しいと思っており、令和9年度から10年度にかけての整備は、タイミング的にはいいのではないか。
- ・ 施設改修について、同じやるのであれば、中途半端ではなくて魅力あるものに改修していただきたい。また、余分なものは省いて集約することも非常にいいことであると思われる。観客席も以前のように大きくする必要はないと思われ、いかにコンパクトにして、お金をかけずにより有効なものにするのかということになってくる。
- ・ その中で、前回の有識者会議で提案させていただいたが、バンクに屋根があるかどうかは、様々な集客、アーバンスポーツ施設や広域避難場所として、かなり意味合いが違ってくるのではないか。
- ・ 様々なイベントを開催する際にも、屋根があるかどうかは天候に左右されないということであれば非常に大きい。太陽光発電を屋根に付けることが可能であれば、電力の心配もなく、災害時でも施設を生かせるのではないか。
- ・ 質問になるが、広域避難場所や防災、災害関連の施設整備には、国からの補助はないのか。施設がそのような意味合いを持つことで、国からの補助が何か得られるのであれば、プラスにも働くのではないか。
- ・ 論点に関して、地域への貢献、公益性の担保ということで考えたときに、様々なアーバンスポーツの魅力で、地域の方々が利用しやすい、アクセスのよさで近畿の各地から来やすい、競技としての魅力、防災面で、向日市民の中で非常に貴重な広域避難場所になるのではないか。

#### (京都府)

- ・ 国の補助制度の活用に関しては、川崎競輪場は太陽光発電を整備されているが、経済産業省の補助制度を活用されたと承知している。

#### (奥野委員)

- ・ 改修費の総額について、約45億円や約30億円と今の段階では見積りも精緻に取られている訳でもなく、そういう意味ではかなりブレがある。
- ・ 一方で、競輪場としての場の魅力、競輪を含むスポーツの新たな競技施設、京都府への財政貢献のみならず、地域のスポーツ・健康の拠点など、向日町競輪場に新たな意味合いも持たせるのであれば、一気に整備をする方が適当ではないか。競輪の開催も中止して整備しないといけないということでは、中途半端に整備され、綺麗になっても、地域の方にとってはメリットが見えないことにならないか少し気にしている。
- ・ 結構な金額をかけて整備を行うことになるので、まず競輪の開催に関する部分だけで整備を行うよりは、地域の方にも同時に施設が綺麗になったことで健康増進のために向日町競輪場に行こうとなるような施設整備を一緒に行う方がよいのではないか。
- ・ そういう意味では、論点にある、「一般会計から繰入金や地方債による財源の確保を行わなくても」というところが、京都府に財政的な負担を強いることを望んでいる訳ではないが、4割程度の余剰スペースの活用も含めて資金手当ができるのであれば、繰越金が約18億円あるとのことでもあったが、若しくは、毎年の収益で十分に資金を積み上

げられればもちろん好ましいが、少しそのあたりも含めた柔軟な対応が必要ではないか。

#### (山本委員)

- 資料にある収支見通しを見る限りでは、単年度収支は基本的に黒字で推移するという一方で、先々の売上減を見込んだとしても、収益は十分確保できるという見通しになっている。
- 一方で、京都府の一般会計への繰出金をどれぐらい見積もるのかは非常に難しく、金額をいくらにしなければいけないという決まりもないので、それをどれぐらいに見積もるのかによっては、施設整備のための資金の積立がどれぐらいできるのかということになる。例えば毎年2億円を繰り出したとしても、10年先を見れば40億円から大目に見ても50億円の積み立てというのは、数字としては何とか見込めるぐらいにあるということであり、この収支見通しに基づくのであれば、論点1の①について、要件を満たしていることになるのではないかと。
- ただし、改修をどのようにしていくのかは、資料にある「基本構想の策定」の中で考えていかなければならない。その内容によっては、事業費がすごく膨れてしまう可能性もあるかもしれない。
- 資料4の3頁に、他の競輪場で最近どれぐらいの事業費をかけて整備が行われているのかが示されている。競輪場によって事情がいろいろと異なるので、事業費の金額自体を単純に比較することはできないが、概ねこの範囲に入っているということを考えれば、内容をきちんと精査することで、十分整備ができるのではないかと。
- その面について、論点2に関係するとすれば、整備の内容、どのような施設にするかについても、きちんと基本構想で、また資金確保を再度確認する上でも、このような取組、論点2の課題に対してきちんと答えていくということは、現時点で、この収支の見通しであれば十分できるのではないかと見て差し支えないと思われる。
- 施設整備の中身は非常に難しいと思われ、今ここで議論することではないが、施設整備の方向性としては、前向きに進めていくことは可能ではないかと。

#### (岡崎委員)

- 収支面では黒字になる見込みとの説明があった。一般会計への繰出という地方財政への貢献も十分理解できるが、それだけで存続するというのは、今の時代にはなかなか難しいのではないかと。
- その地域でどれだけ貢献をし、競輪場以外の施設としても活用できるのか。競輪の競技としての活用も含めて、そういうようなまとめ方にさせていただいたらありがたい。
- 特に、今議論されていたのは競輪場としての整備の話ばかりになっているが、地元住民からすれば、この70年間、向日町競輪場が存続し、今はうまく共存できている環境にはなってきた。残念なのは、競輪場が生む経済効果が地元にはもうなくなってきている。やはり人が動いていないということが一番大きいのではないかとと思うが、これはもう将来的には難しいだろうと思われる。
- それに合わせた周辺整備を十分行うことも計画に盛り込めないか。これは競輪場だけの役割ではなく、京都府として向日町競輪場を存続していくという前提の中で、今まで以上に、向日町競輪場の周辺の環境整備を図るような提案も入れていただければと思う。
- 余剰スペースの活用の中で、この点について全て解決していけるということではない

かと思うが、そのあたりについても言及があればと思う。そのあたりが、まだ具体的に  
見えていないので、もう少しそのあたりについても言及していただきたい。

#### (京都府)

- ・ 地域との関係性についても、基本構想を策定していく段階でしっかり検討を行い、反映させていきたい。

#### (川勝座長)

- ・ 委員の皆さんからそれぞれ御意見をいただいた。基本的には、存続について前向きな意見が多く、それは第1回の有識者会議から変わらないという印象である。
- ・ 存続するに当たっての重要なポイントは、収支の見通しは当然のことではあるが、同時に、地域貢献に資する形での存続という方向性が最も重要な点ではないかと思い、皆さんの御意見を聞かせていただいた。
- ・ また、施設の老朽化は本当に著しいが、向日町競輪場が持つ場のポテンシャルについては、多くの委員の皆さんからいろいろな形で御意見いただいた。
- ・ 徳廣委員からはアクセスのよさ、地理的に比較優位であるというところは、競輪場は全国にあるが、その中でも特に誇れるものの一つなのではないか。それは向日町競輪場を訪れる来場者も、地域の方もそうであるが、選手の皆さんにとっても魅力がある、そういう地理的なアクセシビリティの高さが非常に大きいという御意見をいただいた。
- ・ また、競輪事業の魅力・ポテンシャルに関して、スポーツとしての魅力、競技としての魅力についてもいろいろと学ばせていただいた。このあたりも存続をしていくということの意義として強調していいところではないか。
- ・ 資金繰りに関して、粗々ではあるが本日示された収支の見通しについて、何とかこれぐらいは資金を確保できるのではないかという見通しも立てていただいている。そういう意味でも、ある程度、存続のための資金面での条件は備わっているのではないか。
- ・ ただし、あくまで収支見通しは将来予測であり、何が起こるかかわからないというところは常にリスクヘッジしておかなければいけない。そういう意味では、論点1の①の収支見通しに関しては、継続的な分析が必須ではないか。
- ・ あくまでこの収支見通し・予測は現時点での見通し・予測であり、資料3に記載もあるが、アフターコロナによる観光レジャーの回復、最近の物価の影響・変動による消費の冷え込みなど様々な経済動向をにらみながら、判断しなければいけないという状況下にあることから、やはり条件として、継続的な分析が、収支の見通しを立てていくときには重要である。
- ・ 奥野委員からは、整備に当たっては工期を分けないで、むしろ一気にいった方がいいのではないかと御意見をいただいた。一体的に整備を行うことで効率性を高めるということでもあり、また将来予測が非常に不確実な中で、いつ収益状況が大きく変動するのかわからないことを考えると、堅調に売上を上げている段階で一挙に整備を行ってしまうというやり方は、一つの戦略ではないか。また、余剰スペースの活用も、もの次第では、潜在的なレベルである収益源を生み出せる可能性もない訳ではない。
- ・ 過大な見積もりは避けて欲しいというのが正直なところではあるが、一方で、こうしたポテンシャルを加味して、予測可能な範囲で一挙に整備を行ってしまうといったことは、一つの戦略、アイデアとしては悪くないのではないか。

## <論点 2>

### (山本委員)

- 余剰スペースをどのように有効活用するのかは、競輪を実施する施設部分とは違い、ある意味フリーハンドでいろいろなことが考えられる。前回の有識者会議で提案があった屋根付きなど、それなりに費用がかかると思われる。ドーム型ではない、いわゆる屋根付きの競技場という実例は知らないが、そういうものがあるとすれば、事業費的にはどのようになるのかがわかれば、この収益の中でやるかどうかは別として、どれぐらい実現性が高くなるのかということに近づくのではないか。

### (徳廣委員)

- 日本国内で屋根付きの競輪場はなく、ドームしかないのではないか。ただドームもかなりの金額がかかり、冷暖房費、空調もかかる。
- 世界選手権に出てきた選手や指導者からは、ヨーロッパや世界では屋根付きの方がドームよりも逆に多いと聞く。その理由は、予算がかからないからということである。
- 競輪場ではないが、宇治市にある京都宇治アイスアリーナは、かなり簡易な建物で、観客席も少なく、屋根にも太陽光発電設備を設置し、要するにアイススケート場で一番お金かかるのが氷を作ることであるが、太陽光発電設備で補っており、ほぼトントンでいけるという話も聞いている。整備時にはある程度金額がかかっても、ランニングコストを考えると、優位性はあるのではないか。
- バンクを333mにコンパクトにすることで、屋根の大きさも抑えられるのではないか。ただ、それでもバンク全面を覆うとなるとなかなか大変なものになるかもしれない。そこは考え方で、屋根のサイズ、逆にトラックではなくて、周辺の施設の中で大きな屋根、活用できるような屋根を作るなどいろいろな考え方がある。
- 中央スタンドだけで、周りには屋根をつける必要はないので、それ以外の施設、アーバンスポーツの施設を補うような屋根があつてということであれば、それも考え方の一つではないか。また、広域避難場所にもなるという考え方もあるのではないか。

### (奥野委員)

- 屋根があれば、広域避難場所としての活用という意味ではすごくよいと思われ、バンクも雨風で傷まない。多額の改修費をかけるので、維持費を考えると、バンクが傷まずに継続できるということが必要なのではないか。
- 屋根があることで、バンクが痛まないことにどの程度貢献するのか。一方で、屋根を付けると、空調、夏の暑さに対して、建物として閉鎖してしまうのがどうかというところも含めて、何が案になるのかは是非検討いただきたい。建てて終わりというよりは、建てた後の維持管理コストが建物にはつきまとうので、本当に大変ではないか。
- そういう意味で、一気に整備するのは、地域の方々が利用できる部分の余剰スペースの部分の投票所の取り壊しも含めて、費用は多額にかかる可能性があるということ、余剰スペースをどのようなコンテンツにして、民間導入を上手にやっていくのかということがとても大事ではないか。
- 今後の省エネ対策にうまく活用できるかということも考えた屋根付きという部分を含めて、検討いただきたい。

(岡崎委員)

- 余剰スペースの活用方法について、今までの向日町競輪場のイメージは、塀の中で競技が行われていたという暗いイメージがずっとつきまとい、地元の者にとっては、いつ開催されているのか、それすらわからないような状況であることは事実である。
- 地域住民の皆さんと向日町競輪場が分断されている部分が実はあるが、そういうことを解消できるような施設整備の方法を検討いただければ、地域住民の皆さんにも親しまれる施設になり、まして向日市の場合、向日町競輪場のような広大な土地がないので、防災面での、広域避難場所に指定されているが、設備的には非常に難しい状況になっているので、そういった面も前提とする中で、余剰スペースの活用を十分に図っていただき、地域住民の皆さんとも連携が図れるような施設になっていければと思う。それがひいては、地域の経済効果を生むことになるのではないかと。

(徳廣委員)

- 敷地外の少し離れているグラウンドの駐車場について、今後競輪場と併せての活用を考えているのか。そこに駐車した場合、道路を横断したりして移動するのはかなり不便で、近くにあるのに不便という印象をすごく受ける。一方、敷地外の駐車場としている場所はかなりよい場所で、アクセスもしやすいので、向日町競輪場の敷地内ではないが、余剰スペースとしても使える部分でもあるのではないかと。
- 費用はかかるかもしれないが、向日町競輪場と横断陸橋のようなものがあれば、向日市役所と連携ができるといったことを、駐車場を利用する際にはいつも考えている。

(川勝座長)

- 論点2に関して、競輪事業、競輪場についての課題と必要な取組ということで、御意見をいただいた。具体的に屋根付きがいいのではないかと御意見もいただいた。
- 屋根を付けることは、それなりに追加的に費用が当然発生するが、一方で、屋根を付けることで、例えば、バンクの損傷が抑制されるという意味では、少し長いスパンで見た時の維持管理費が抑制されるのではないかとということも含め、屋根を付けるのか否かなど施設整備を考える時には見積もって考えてみるということも一案ではないかと御意見をいただいた。
- 今後の課題と必要な取組という方向性について、改めて確認をしておきたい。一つは、競輪事業は、ある意味、自立経営ができる可能性があるという点である。特に、経常経費だけでなく、普通であれば難しい資本の整備というところも、自ら積み立てをして、計画的にその財源を確保するという術を持っているということである。
- 京都府財政が厳しい状況にあるので、京都府財政に影響を与えないということが、一番大きな前提になるであろうし、それなしにはおそらく合意が得られないのではないかと。したがって、資本費のところも順調にいけばではあるが、自らカバーできる可能性があることが、存続の理由の一つというように言っているのではないかと。
- 一方で、京都府財政への貢献は、依然として失われてはいけない面である。いくら金額を繰り出すのかは特に定めがないところであり、定める必要もないとは思っているが、京都府財政にも一定貢献している、あるいは貢献できる可能性があるというところは、存続の前提として、今も非常に重要な要素ではないかと。
- もともと、地方自治体が公営競技の実施を認められている条件に、地方財政への貢献

がある。したがって、自立的に経営できているので、もうそれでいいのだということではなくて、やはり一定の還元が京都府財政にもなされる、そういうものになっているということは、揺るぎない、非常に重要な要素である。現時点の見通しでは、大きな期待をしてはいけませんが、一定そういうことにも貢献し得るということが言えそうであり、またそれが今後の課題であると位置付けておいた方がいいのではないかと。

- 必要な取組については、委員の皆さんの御意見を伺う限りでは、余剰スペースをどのように活用するかが大きいのではないかと。これはひいては、地域住民の皆さんとの連携をどのように図っていくかということであり、非常に大きなポイントになると思われる。
- 従来、向日町競輪場は、地域の方と大袈裟に言えば少し分断されているような感じになっていたのではないかと。つまり、利用する人にとっては非常に身近な存在かもしれないが、特定の人しか活用していないということになってしまうと、せっかく地域の中にあるのに、地域との関係性があまりよくなかったり、連携を深めるような環境になっていなかったりということになってしまい、地域の皆さんにとっても愛される場ということにもならない。そういったことを解消していくような、余剰スペースの活用が重要になってくる。したがって、存続の条件として、余剰スペースの活用方法については、地域住民の皆さんの意見を聞く場をしっかりと設けるべきではないかと。
- ひと手間もふた手間もかかると思われるが、長きに渡って使っていただく、そのために大きな投資をするので、施設整備ができてからこんなはずではなかったということになってはいけません。むしろ地域住民の皆さんに応援してもらえないようにならないといけませんので、やはり検討のプロセスに関わっていただくと、向日町競輪場を使おう、使いたいと地域住民の皆さんも思われるのではないかと。
- 余剰スペースの活用のあり方を考えていく際には、しっかりと地域住民の皆さんを巻き込んで意見を聴きながら、こうなったらいいのではというビジョンをしっかりと共有しておくということは、手間はかかるかもしれないが、とても大事なことではないかと。
- そうしたことが、ひいてはスポーツ人材の育成、特に子供たちのスポーツ人材としての育成にも繋がっていくのではないかと。特に、向日町競輪場の周辺地域は、子育て世代が非常に多いということも前回の有識者会議では説明があった。子供たちが、健康面はもちろんのこと、日本だけでなく、世界でも活躍する人材として羽ばたいていけるような機会を、この場を使って設けることができれば、さらに素晴らしいことではないかと。そういったことも一つの地域貢献と言えるのではないかと。そのような観点を持つことで、初めてこの競輪事業、競輪場を継続していくということになるのではないかと。
- 大きくは、京都府財政との関係と地域住民の皆さんとの関係・連携、これらの観点が、特に事業を存続していく上で重要な課題になり、必要な取組ということになるのではないかと。

(以上)